

第2回吹田市環境審議会議事概要

平成27年(2015年)10月28日(水)10:00~11:50

吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

〈出席委員〉

江川直樹	委員	上甫木昭春	委員(会長)	芝田育也	委員
三輪信哉	委員(副会長)	和田武	委員	泉井智弘	委員
五十川有香	委員	足立将一	委員	浜川剛	委員
井口直美	委員	玉井美樹子	委員	当麻潔	委員
藤井貞雄	委員	小林俊範	委員	中野政男	委員
牛田敏英	委員	小川勉	委員	立木靖子	委員
宮下研二	委員	山口淳	委員	山中貞志	委員

〈欠席委員〉

岩城裕	委員	近藤明	委員	塚本直幸	委員
西田ヒロ子	委員				

※委員25名中21名の出席により吹田市環境審議会規則第5条第2項の規定である会議の開催要件を満たしている。

〈事務局〉

今川環境部長、柚山環境部次長、赤阪環境政策室長、寺本環境政策室参事、佐藤環境政策室参事、
小山主査、丸谷主査

(株)総合環境計画2名

〈傍聴者〉なし

〈次第〉

- 1 吹田市地球温暖化対策新実行計画の見直しについて
- 2 その他

—開会—

環境部長挨拶

- 会長 ○会議次第に従いまして、吹田市地球温暖化対策新実行計画について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 ○〈資料 1-1、1-2、1-3、参考資料 1 について説明〉
- 会長 ○どうもありがとうございました。審議会等の皆さんから頂いたご意見を説明して頂きましたが、意見概要に対する対応という所に対してご意見、ご質問があれば、どこからでも結構ですのでご発言頂けたらと思います。
- 委員 ○2050 年の長期目標について、75%削減目標を吹田市が出した当時は先駆的な目標でありましたが、そのあと国の方も 80%の目標に変えたわけですけれども、吹田市も今の段階で 80%の目標に変えても良いのではないかと思うのですがいかがでしょうか。計画の具体的な中身は当面の目標に対するものですので、長期目標を変更した事による影響はないように思うのですが。
- 会長 ○素案 p. 3 の長期目標そのものを見直した方が良いというご意見ですね。
- 事務局 ○国の目標値ですので、本市が 80%に出来ない理由はないと思いますが、5 年後に第 2 次計画を作り直す際に、新たに長期目標を考え直す必要はないでしょうか。その可能性があるなら、その時に深い議論をして長期目標を決めるという考え方もあるかと思います。また、第 2 次環境基本計画で 75%という数字が出ているので、しばらくの間、乖離が生じるという事情もございます。
- 会長 ○これに関して他の委員の方はいかがですか。やはり、基本計画の方と乖離が出るとよろしくないので、75%以上の所はそのままにしておくという事でよろしいですね。ただ、第 5 章では、先進国に求めている、国の目標は明記して頂くという事をお願いします。
- 委員 ○今の委員のご発言は、いろんな方が同じように言ってこられると思います。吹田市では先進的に先に定めたものであるとか、これについては 5 年後に検討し直すとか説明があれば、市民の方も理解しやすいかと思います。
- 会長 ○今後の検討課題としてとらえておくとしておけば良いと思います。
- 事務局 ○第 5 章の方に「先進国では」といった内容もあるので、そこと合わせて何か書かせてもらえればと思います。また p. 5～6 に国や大阪府の目標と比べて書いている部分もありますのでそこでも書かせてもらえればと思います。
- 会長 ○目標についてはエネルギー消費の削減量について併記した事と、p. 7 にある太陽光発電システムの導入件数等について、大阪府の目標に基づいたものを目標として掲げるという提案も頂いていますが、これについてご意見はありますか。
- 委員 ○大阪府並の目標で良いのか、という点が気になります。大阪府で按分するとこのような目標になるというのは分かるのですが、他より高い目標を掲げてやっていくという事からすると、これを越しても良いのではないかとも思います。ただ、国の方でも買い取り制度の見直しなどが出てきて、厳しい状況にはありますので、どうしたものかとは思いますが。
- 会長 ○根拠のある数値を設定しようと苦労されたのだらうと思います。また実現性も考え

た上で、このような数値になったのであろうと思います。

- 事務局 ○市レベルでは再生可能エネルギーの数値を正確に捉える事が難しいという事情がまずあります。広域の国レベルでは比較的正確で、都道府県単位ではそれに次ぎます。市独自で根拠を持って目標値を立てづらい状況ですので、広域の目標に依拠する形で数値を設定しています。また、本市の特徴として、メガソーラーを設置するような広大な土地がないため、発電量で他市より優位に立つ事が難しいという事情もあり、平均的な数値ですが、これで提案させていただいたものです。
- 会長 ○他に意見が無ければ、太陽光発電の目標は2万2千キロワット、4千件でよろしいでしょうか。
- 委員 ○住宅への太陽光発電の導入数について、戸数あたりで何%くらいになっていますか。吹田市の場合、メガソーラーがつけにくいので住宅用が中心にならざるを得ないので、住宅用の設置目標を何%にするか、というのが一つの指標になりえるかと思うのですが。
- 事務局 ○住宅用、非住宅用という区分がないので、10キロワット未満かそれ以上かという事で言いますと、10キロワット未満が2,366、10キロワット以上が178となっています。
- 委員 ○2,366が住宅だとすると、戸数あたりで比率はどれくらいになりますか。
- 事務局 ○はっきりとした戸数は今手元に資料が無いのですが、戸建てがおおよそ32,000戸くらいですので、おそらく1割は切る、5%よりは上という感じかと思います。
- 委員 ○分かりました。
- 委員 ○民生部門の排出量がかかなり大きな部分を占めているという事は、市民一人一人がライフスタイルを変えないと目標は達成出来ないと思います。危機感を持ってもらうという意味で、重点施策にライフスタイルの変革というものを打ち出しても良いのでは。具体的な取組の中にはありますが、重点施策にライフスタイルが大きく取り上げられていないので、環境教育も含めて市民のライフスタイルを変えていくというのを、ここに打ち出しても良いのではないかと思います。
- 事務局 ○本計画では冊子と概要版を作る予定ですが、これ自体が地球温暖化の啓発のツールになるようにと考えています。この案では、今、温暖化がどうなっているのか、このままだとどうなるのか、という事を書いて、まず実態を知ってもらう事を狙いの一つとしています。ライフスタイルの転換は重点施策の項目としては取り上げていませんが、冊子自体がそのための重要な啓発ツールであると事務局では捉えています。
- 次に、危機的な状況を知ってもらって、行動を変えてもらう事についてですけども、自分たちがどれくらいCO2を出しているか知って頂く必要があるという事で、重点施策の1番でCO2削減ポテンシャルの見える化を挙げさせて頂いています。その上で、ライフスタイルを変えるための省エネや再エネを推進する施策を重点として挙げています。
- 委員 ○省エネ、節エネについては現行計画で本市が全国に先駆けて打ち出しましたが、重点施策としてこれが一番大事だと「見える化」する事が、市民に訴える力が強いのではないかと思います。例えば、市内の排出量の7割近くが中小の事業者さ

ん、市民から出ていて、そこを何とかしないと縮まらない。それを明確にするためにも、ライフスタイルを明記すべきという意見を支持したいと思います。

- 個人的には、例えば資料1-1の13頁を見ますと、エネルギーベースで1990年の時に21.2ペタジュールだったものが、24年に19.7ペタジュールと、1%ぐらいしか減っていませんので、あと5年で25%減らせるのかという意見は絶対出てきません。その時に、やはり25%は達成出来ない数字だったのだと皆が認識した時の怖さを思っています。達成しなかった時の揺り戻しを危惧しています。そういう意味では危機的な状況である事をストレートに言われてもよいのかなと思っています。個人的には、エネルギーの削減は1~2%にとどまると思われ、目標値と現実が乖離しつづける状況というのは健全な事ではありませんので、目標達成はライフスタイルにかかっている事を表現してもらいたいと思います。

委員

- この資料について、啓発のための市民向けのものとお伺いしましたが、一般主婦から見てこれを読んでも、やらなければならないのは大まかに分かりますが、単位など表現が全然分からないのです。家庭の排出が多い事、市民の意識の部分から変えなければならないというのは分かるのですが、家庭を預かっている主婦の視点から見ると有識者が作ったものなんだなという事しか分からない。例えばp.26の取り組み例の所に、1時間当たり何円得しますと言われた方が分かりやすく、何%といわれてもピンとこないのです。この冊子を見てすごいなとは思いますが、一般市民を対象としたものとしてはどうかなと直感的に思います。
- ライフスタイルを変えるというのは本当に大事だと思います。そのためには主婦に訴えないといけない。やらなければならない事は皆よくわかっているので、そこに届くような表現にしないとダメだと思います。やらなければならない事がたくさん書かれていますが、何からすれば良いのか分からない所もあるので、家計に結びつくような表現を加えて頂ければという意見です。

会長

- 市民向けには概略版をお作りになるのですね。

事務局

- 計画作成の意図として、市民への啓発という目的もちろんありますが、本質としては計画ですので、市がまずどうするか、そして事業者、市民の三者の各主体がどうするかという性格のものであります。ただ、手に取って頂いたときに理解を深めていただくため、啓発としての性格も取り入れたものであり、啓発冊子そのものとは少し違っております。

委員

- 読んで頂かないと進まないものでもあるので、レベルを下げて、身近な観点を少しでも取り入れて頂きたいと思います。

事務局

- 概要版にはそういった工夫も盛り込みたいと思います。

事務局

- 本市では、温暖化に特化したものではなくて普遍的なものですけれども、市民生活における環境配慮というものを、分かりやすい平易的な表現を使った「環境まちづくりガイドライン市民生活版」というものを作っており、全戸配布もしています。今委員がおっしゃられた所にも近いものであり、さらに充実させていきたいと思っています。

会長

- 市民の方に動いて頂かないとどうしようもない計画であり、市民の方に届くような、やりがいのある形でご検討願います。

○ライフスタイルの変革をする中身が、重点施策という事ですね。そのあたりも説明に入れておかれてはどうでしょうか。p. 23、24 に計画が目指す未来の吹田市の姿というのがありますね、そのためにライフスタイルを変えていく事が重要だと。そのために重点施策が掲げられていると説明を持ってくると、全体としては流れていく印象を持ったのですが、いかがでしょう。

事務局

○p. 8 で、計画の主体とそれぞれの役割を、市民、事業者、市について書いています。市の所には、市民や事業者が自主的で積極的な取り組みの支援を行うとしており、ライフスタイルやビジネススタイルの提案や啓発、その他関連情報の発信を行うという事で、ライフスタイルの転換を市自ら発信していきたいという事を書いてあります。これに併せて、市民の所にも主体的にライフスタイルを変える事が大切である旨をうたい込むという方法も考えられます。

○重点施策というのはあくまで具体的なツールとっておりますので、それぞれの役割においてどういった認識を持って頂くか、取り組んでいただくか、概念的なものをこちらに持っていきたいと思います。

会長
委員

○p. 8 の所にこういった事を書き込むのは明快だと思います。

○しかし、おそらく読む方は、前半部分は見ないのではないのでしょうか。市民が何をしたら良いのか、第 3 章の具体的な所は読むとして、もし重点施策に一項目付けるのが無理なのであれば、p. 28 の所に、25%を達成するには今からこういう事をしなければいけないと、危機感を盛り込んだ表現で記述してもらえればと思います。p. 8 にも、ここにも書いて、しつこいほど書いた方が良いでしょう。

委員

○ライフスタイルの転換は重要な事で、多くの国でやられてきている温暖化対策というのは、それに関わる人にとって利益となる、地域の発展につながるなどプラス面を多く持っています。省エネにしても再エネにしても、損をしないで取り組める、利益を得られる場合もありうるので、こうした取り組みを推進する事が、社会全体にとってプラス効果があるのだという雰囲気を持ったものであるべきだと思います。危機意識と義務感だけでやるのではなく、事業者にしても省エネの取り組みでどういう利益が得られるか、具体的には ESCO 事業などで事例があるわけですね。家庭でも、太陽光発電を入れた家庭は 10 年で建設費の元をとって、なおかつ寿命は 20 年以上ありますから、プラスになるわけですね。そういうイメージが全体として流れていると、みんなで作ろうという雰囲気になってくると思うのです。全体の印象として、義務的にやるのではなく、楽しいし、プラス面がある、という事が重要だと思います。

委員

○その結果吹田市が美しくなる、人々が充実して生きていける、そこが一番重要かと私も思います。

会長

○継続してやらないといけませんので、楽しみと喜びがないと続かないので、危機意識だけをあおるのではなくて、そういう所を盛り込んで資料構成をして頂けたらと思います。

委員

○楽しい、美しいというのは重要な提案だと思いますので、5 年後にはそういった楽しい CO2 (こつこつ) プランというのが出てくるかもしれません。

○先ほどのライフスタイルの話に戻りますが、一般の人はこの冊子の頭出しの所だ

け見てそこで終わると思うのです。我々も新聞の頭出しをまず見て、読みたい所だけを読むように。ですから、頭出しの所に「ライフスタイル」という言葉が出てこない、という事は重点的に思っていないんだなととるわけですね。そういう意味では例えば 28 頁の所に、ライフスタイルという言葉が入った節、項があると訴えかけが強いかなと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局 ○ ライフスタイルを変えていく事が、目標の達成のために不可欠であることは間違いないと思います。ただ、変えてくださいと言って変えてもらえるかといえば、それは難しい。ライフスタイルを変えてもらうためには、それがどれだけ重要な事なのか認識していただく事がまず必要になるのではないかと。そのために、地球温暖化の危機的な状況と本市の現状について事実として正確に把握し、科学的な知識をもっといただく事が、結果としてライフスタイルの転換につながるものだと考えております。

委員 ○ 理屈で考えて人の行動を促進させるというのではなくて、まずやってみる、やってみて効果が見える、楽しさが分かる、その結果まちがきれいになる、そこから環境を変えていくという姿勢が重要なのかと思うのですが。そういう発想も今とても重要で、特に阪神淡路大震災以降、まずやってみる、計画を立てる前にやってみる、まちづくりの中ではそういう要素も重要視されている所があるから、そういう要素も混ぜながらやって頂けたら良いのかなと思いました。

委員 ○ 的外れになってしまうかも知れませんが 2 点あります。まずライフスタイルの変更という事で、より分かりやすく市民の方に伝える事も大事だと思いますが、例えばライフスタイルを変えろといわれましても、私は能勢の方に住んでいます。公共交通機関がほとんどなく、車を使わざるを得ない状況です。駅のエスカレーターも高齢化社会の中で、費用を捻出する事が出来なくて廃止するという事が言われています。そういう実態の中でどうライフスタイルを変えたら良いのか。切羽詰まった状態の中でしか人間は動けないと思うのです。例えばエコバッグにしても、吹田市のマイバッグの普及率は 50%を切っていますが、私が使っている市外のお店では 90%以上を達成しています。やはりこれはやるべき事からやっていると、切羽詰まっているから結果が出てくるという現れではないでしょうか。

○ もう一つは、環境教育という事を言われていますが、学校の方にも多くの課題があります。エコスクールといっても、耐震化で窓をふさがれた子供たちが、この熱い中でエコスクールが出来るのでしょうか。その中で出来る事といえばごみの分別なり、家庭と協力して出来る事などにならざるを得ず、温暖化の授業をしたくても出来る余地が無い、時間が取れないのです。それを現実として分って頂きながら、じゃあどうするのか、具体的に考えて頂くのがこの場所ではないかなと思っています。

委員 ○ やれる所からやるというのと、やれる人からやる、これがやはり重要だと思います。危機感をあおられても、出来ない人は出来ないわけですから、出来る人は率先してやる、これはまちづくりで学んだ基本ですね。例えば吹田の場合はマンションが多いわけですから、コンクリートはすぐ蓄熱しますので、外壁の遮熱、緑化による遮熱など、簡単な事で誰でも出来る様な事です。でも全員がやらなき

やいけないというわけではなくて、やればきれいになるし楽しいですよ、そういう視点が流れているような書きぶりも要るのではないかというのが、皆さんのご意見ではないかと思います。

会長 ○これは非常に大事な事で、何人くらいの市民の方がこれを読んで実践しているのかというと、まだまだ少ないと思いますから、環境と共生したライフスタイルの実践状況はどうなのか、市民のレベルでどこまで到達しているのかという事を、一方で把握もしながらライフスタイルの啓発をやらないと、次のステップにいけないかなと思います。今はライフスタイルを変革するためのツールを提示して、出来る人も出来ない人もいるのですが、出来る人は少しでも実践して下さいという段階です。5年後また改訂があるわけですから、その時点で、市民の実施状況を掴みつつ、具体的なライフスタイルの項を付け加える。情報収集も合わせてやっていく必要があると感じたのですが、いかがでしょうか。

委員 ○家庭でのライフスタイルの転換が大事だというのはよく分かります。事業者にとっても、省エネというのはすべてに共通する大事なキーワードです。ライフスタイルという事を具体的に考えるとき、どういう手段があるか、例えば事業者にとってはESCOの事業など、うまくやれば儲かるというか、そういう所に気付くよう、広める事が大事だと思います。講習会をしたり冊子を出したり、これまでも色々やっておられますが、その延長として普及が重要です。本来の目的として省エネ社会というのが非常に大事ですので、省エネ手段を知ってもらう事に注力して頂ければと思います。

事務局 ○ライフスタイルの転換というのをどのように表現するかという事については、あらためて検討の時間を頂戴したいと思います。

○先ほどご提案いただきました、やれる事からやっていくというのは非常に大事な事だと思います。ただ、本計画の中にそれを入れるかという話は少し考えさせていただきたい。と言いますのも、この計画は、環境基本計画の各分野のうち、省エネや再生可能エネルギーの導入など、地球温暖化対策に特化したものという位置づけです。環境基本計画において、環境パートナーシップの推進を重点プロジェクトとしています。本市の環境問題を市民等と情報共有し合って、推進しているという事を明記しておりますので、こうした考え方を環境基本計画の中で充実させていくのか、本計画のような特化した計画の中で充実させていくのか、どちらが良いのかという点については改めて考えさせて頂きたいと思います。

委員 ○第3章の目標の達成に向けて、どうすれば実現出来るか、環境がよくなるのか、という事は、冷静に分析するだけでは無理だと思います。どういうやり方でそれを実現していくのかというプロセスの所がとても重要で、昔は行政が作る基本計画は、数値目標や事業目標を決めたりする事が主流でしたが、最近私が一緒になって作った計画は、プロセスを書く事によって目標に近づけていくという考え方のものでした。やりながら考えていくという視点もとても需要で、やっていく中で違った視点が見えてくる、そういう計画を作った事があります。議会でいろいろ言われましたが、このような状況の中で、本当に世の中を変えていくためにはこういうやり方の方が良いのではないかと、という事で、当面それでやっていこう

という事になりました。そういう例もある事があります。どうやって何%の目標を達成していくのか、そういうプロセス論が重要ではないかと思います。

会長 ○環境基本計画があつて、温暖化の行動計画がある、目標像としては非常に必要な事なので、そういう意味の計画だと思います。いまおっしゃったプロセスの話やシナリオ型の計画というのは非常に重要な話で、市民と一緒にやっていかなきゃいけない事であります。例えばアジェンダ 21 などの中でプロセスをきっちり考え、反省をしながら進んでいく、そちらの方で受けて頂くという事でも良いと思います。

○ライフスタイルの変革の取り扱いですけれども、p. 8 の計画の主体の所に、市民もライフスタイルの変革に向けて云々という内容を書き入れる、あるいは第 3 章の適切な所に、危機的な状況である事やメリットがあるというのも含めながら書いていくという事でよろしいでしょうか。異論が無いようですので、ライフスタイルの所はそういった形で盛り込みたいと思います。

委員 ○環境白書の p. 4 ですが、この表の所に省エネルギーという切り口がないのですが、来年には加えられるのでしょうか。

事務局 ○これは現行計画に沿ったものですので、来年は今回の見直しに合わせて差し替えます。

会長 ○他になければ審議は終了したいと思います。今日頂いたご意見と、5 章については、別立てにした方が良くように思いますが、そのような方向でよろしいでしょうか。文章の内容や、今日頂いたご意見の表現方法については私と事務局の方で調整させて頂いて、必要であれば修正という形で私の方で預からせて頂く形でよろしいでしょうか。

一同 ○（異議なしの声）

会長 ○では、そのような形で取り計らいたいと思います。

○従いまして、吹田市地球温暖化対策新実行計画の改定案は、本日の意見対応の会長承認をもって審議会の了承を頂いたものとさせて頂きたいと思います。ありがとうございます。

○事務局より、今後のスケジュールの確認をお願い致します。

事務局 ○本日の審議内容を受けまして、庁内での周知を 11 月、12 月に行い、その後手続きを経た後 1 月からパブリックコメントの方をしていきたいと考えております。パブリックコメントの意見集約の後、最終的には 3 月に確定し、委員会の方にもご報告という形を取らせて頂きます。以上でございます。

会長 ○ありがとうございます。議事次第で「その他」がございますが、事務局の方から何かありますでしょうか。無いようですので、環境審議会を終了させて頂きます。本日はどうもありがとうございました。